双葉通信【第 104 回】　“ふくしまに恋をして”　20200715

上　田　　勉

大熊町の特定復興再生拠点区域について

大熊町は 2019 年 4 月 10 日に、2 つの地区（大川原地区と中屋敷地区）の避難指示が解除されました。これは、福島第一原発がある立地自治体では初めてです。原発事故から 9 年 3 カ月が経って、現在町に住民票のある町民は、10,252 人です。町内の居住者は 852 人です。これは、福島第一原発の廃炉作業をする東京電力の関係者が含まれています。

大熊町では、2022 年春に、JR 大野駅周辺の特定再生復興拠点区域の避難指示解除に向けて、町の総力を挙げて復興に取り組んでいます（及ばずながら私も含めて）。

私は町の職員有志による「未来会議」という町の勉強会に参加しています。大野駅西側は、西北地区（産業地区・産業交流施設・ホテル・コンベンション）と西南地区（商業施設・アーカイブズ施設）に分かれます。私が参加している部会では、西南地区の商業施設（商店街、広さは約 1ha）の再生に取り組んでいます。

原発事故前の街並みや建物を残して保存できないか

今回、大野駅西側の帰還困難区域の中に立入る機会がありました。私は原発事故前の駅前の商店街は知りませんが、原発事故前の建物が老朽化したままで、そのまま残っています。まさに時間が止まった街です。職員の人に聞いたら、役場には車通勤だったので、居酒屋にはあまり通ってはいなかったとのことです。

私は、新しい商業施設（商店街）の計画について、①駅前の商店街、②高齢者と障害者に優しい商店街という 2 つのコンセプトについて、提案しました。双葉郡には、比較的に大きな駅前商店街が、富岡町と浪江町にありました。しかし、この 2 つの商店街も、土地所有者の申請によって、環境省が建物を解体していて、今では串の歯が抜けたような街並みになってしまいました。

私はまた、新しい街づくりと共に、いやそれにも増して、原発事故前の街並みや建物を震災遺構として残せないか、と言うことに取組んでいます。大熊町には、駅前の商店街や立派な民家が立ち並んでいる通りがあります。2 つの民家は、町の教育総務課の努力もあって、国の登録有形文化財に文化庁から指定されて、保存されることになりました。公共施設では、役場や体育館、図書館（10 万冊の蔵書があった）、小中学校の建物も、いずれは環境省によって解体されてしまいます。

今、広島では原爆にあった旧広島陸軍被服支廠倉庫の建物が、所有者の広島県によって、解体されることになって、市民から反対運動が盛り上がっています。大熊町でも、原発事故前の街並みや建物を何とか残したいです。

【大熊町の人口の推移】
2010 年（原発事故前）：11,515 人
2020 年 6 月 30 日現在：10,252 人、町内居住者（推計）：852 人（内帰還者：122 人）

【9年3ヵ月前のまま　大野駅駅前商店街（帰還困難区域）】

【多くの町民が通った居酒屋　のん兵衛よ怒れ！！】